

TOPIC

1

くにたちえきひろ大学

第3回ワークショップを実施しました！

くにたち
えきひろ
大学

2024(令和6)年9月8日(日)、くにたちえきひろ大学の第3回ワークショップ「駅前広場の活動からわたしを考える」を実施しました。2024(令和6)年度のえきひろ大学のワークショップは、今回で最終回でした。前回同様、駅前広場の現地を確認した後、ゲストの西山芽衣さん(Hello Garden主催)より講演いただき、*基本設計事業者チームとのトーク、その後、グループごとに意見交換を行いました。

*基本設計 | 整備の基本的な内容を図面で明らかにすること

開催
実績

〔日時〕 2024(令和6)年9月8日(日)13:30~16:30

〔場所〕 国立駅前くにたちこくぶんじ市民プラザ

〔参加者〕 26名

今回も小学生から高齢者、しょうがいのある方まで多様な方々に参加いただきました！

西山芽衣さん講演 MEMO

できることからアクションし“私たち”の日常をアップデートしていく

西千葉のHello Gardenでの活動内容や、これまでのプロセスを紹介いただきました。身の丈から始まる小さな活動にも、まちや社会の仕組みを変えたり、まちの景色を大きく変える力があること。何かを始めないと、まちにも、自分自身の暮らしにも変化は起こらないこと。また、関わり方は人それぞれであることなど、駅前広場での活動を考えるためのヒントをたくさんいただきました。



意見交換「駅前広場のサークル活動をつくる」



①個人ワーク

「私の活動を考えるノート」に各々が得意なことや苦手なこと、駅前広場でやってみたいことなどを書き出しました。

②グループづくり

関心が近い人同士で声をかけあって、グループをつくりました。全部で6つのグループができました。



③グループワーク

グループのテーマに基づいて、駅前広場でのサークル活動の張り紙を作成しました。



意見交換のテーマは「駅前広場のサークル活動をつくる」として「駅前広場でのサークル活動の張り紙」づくりを行いました。今回「張り紙」を検討することとしたのは、**個人でやりたい活動が前提であることと同時に、駅前広場という公共性の高い空間においては、活動の公共性や、共感性も大切であるためです。**

意見交換は、はじめに個人ワークを行い、自身の得意なこと、苦手なこと、興味関心、普段の休日の過ごし方や駅前広場でやってみたいことを「私の活動を考えるノート」に書き出しました。次に、個人ワークの結果をもとに、関心が近い人同士でグループをつくりました。そして、グループに分かれた後は、駅前広場での具体的な活動内容、活動頻度や、参加してほしい人などを自分ごとで考え、張り紙にまとめました。シートに貼り出し、活動の説明(場所など)、また駅前広場に必要な機能などがあれば、平面図に書き込みました。

裏面に、意見交換の結果概要を掲載しています

いただいたご意見の紹介（概要）

6つのグループごとに駅前広場のサークル活動の張り紙を検討し、作成しました。関心が近い人同士でグループをつくったため、同時にそれがグループのテーマとなって、テーマに基づくサークル活動が考えられました。今回のグループワークの結果からは、大きく、**場所ごとの活動ニーズや必要な機能**、また、違う場所でも共通の活動ニーズがあるなど、「駅前広場の活動において大切にしたいこと」も読み取ることができました。

6つのグループ

- 1G 個人が過ごせる(自分事として使う) 2G 食
- 3G 自然×のんびり 4G 音楽・映画・デジタルを楽しもう!
- 5G 社会問題～交流したくない人の交流を～ 6G 木工とのんびり



▲自然×のんびりグループのワークシート（張り紙と平面図への書き込み）

場所ごとの活動ニーズや必要な機能（一部抜粋）

どこでどのような活動ができると良いか、またそのためにはどのような機能が必要か、などのニーズが読み取れました。

場所	活動	必要な機能など
円形公園	・生き物、植物の観察 ・釣り ・交流したくない人の交流の場 ・ファニチャーづくり	・ビオトープ 親水空間 ・動物が通れる道 ・常に人が入れる動線 ・可動式ファニチャー（スツールなど）
東西広場	・シェア倉庫の備品を使って自由に過ごす ・しょうがいしゃスポーツフェスティバル ・読書 ・国立野菜や料理を楽しむ ・自由に音楽の演奏、発表	・シェア倉庫 ・可動式ファニチャー（スツールなど） ・荷物を預けられる場所 ・子どもを遊ばせたり見てくれる場所 ・芝 ・大きな木（日陰） ・スクリーン ・ステージ
東西歩道	・持ち寄りカフェ	・可動式ファニチャー（スツールなど）

駅前広場の活動において大切にしたいこと

違う場所でも同様の活動ニーズがあることから「駅前広場の活動において大切にしたいこと」が読み取れました。

誰もが主体的に関わる ことができる駅前であること

- ・自分で手作りする
- ・草むしりや水やりなど緑を守る
- ・自由に演奏や発表ができる

1人で過ごしたい人の 居場所があること

- ・しゃべらなくても間が持つ距離感で好きな場所で過ごすことができる
- ・交流したくない人の交流がある

拠点があり、まちへ展開する 仕掛けがあること

- ・持ち出し可能なスツールがあり、好きなところに置いて自分の居場所がつけれる

多様な過ごし方ができる 駅前であること

- ・芝生(人工芝)エリアや日陰
スクリーン、ステージやシェア倉庫
などがあり、活動の幅が広がる

円形公園は親水空間や多様な 生き物がいる場にすること

- ・ビオトープがある
- ・常に人が入れる動線を確保する

意見のまとめた
全体は国立市 HP で
ご覧いただけます。



※上記はグループの意見交換の結果をまとめたものであり、基本設計に反映できないものもあります。

お知らせ

くにたちえきひろ大学社会実験
駅前広場を居場所にする
グリーン・ファニチャー・アクション

各ワークショップでいただいたご意見・ご提案を基に社会実験（実際に国立駅南口駅前広場で実験する試み）を行います。詳細については今後、国立市の HP などでご案内をしていきます。

実施時期 | 11月上旬（予定） 実施場所 | 国立駅南口駅前広場